

# 令和5年司法試験予備試験短答式試験の結果を受けて

2023年8月3日

## 1 令和5年司法試験予備試験短答式試験の結果

本日、法務省大臣官房人事課より、令和4年の司法試験予備試験短答式試験（以下、「予備試験短答式試験」といいます。）の結果が発表されました。結果は、以下のとおりです。

受 験 者：13,372人

（令和4年：13,004人、令和3年：11,717人、令和2年：10,608人、  
令和元年：11,780人）

採 点 対 象 者：13,255人

（令和4年：12,882人、令和3年：11,655人、令和2年：10,550人、  
令和元年：11,682人）

合 格 点：168点以上

（令和4年：159点以上、令和3年：162点以上、  
令和2年：156点以上、令和元年：162点以上）

合 格 者 数：2,685人

（令和4年：2,829人、令和3年：2,723人、令和2年：2,529人、  
令和元年：2,696人）

平均点（合格者）：183.4点

（令和4年：175.0点、令和3年：178.7点、令和2年：173.7点、  
令和元年：177.0点）

平均点（全体）：134.5点

（令和4年：127.9点、令和3年：132.0点、令和2年：128.8点、  
令和元年：133.8点）

合 格 率：約20.3%

（令和4年：約22.0%、令和3年：約23.4%、令和2年：約24.0%、  
令和元年：約23.1%）

※ 合格率は、採点対象者に占める合格者数の割合で算出しています。

## 2 予備試験短答式試験の結果から読み取れること

まず、合格点から見ていきます。令和2年は「156点以上」であったのが、一昨年（令和3年）は「162点以上」、昨年は「159点以上」と3点刻みで推移していましたが、今年は今令和元年以降最も高い「168点以上」となりました。一気に9点も上がった状況であり、来年の合格点が何点程度になるのかの推測もかなり立てにくいと言わざるを得ません。非常に幅広い推測となりますが、おそらく「156点～168点以上」の間での推移とな

るのではないのでしょうか。

次に、合格率を見ますと、今年は約 20.3%となっており、予備試験が実施されるようになった平成 23 年から見て最も低い数字となりました。今年を除くと、最も合格率が低かったのは平成 25 年の約 21.5%だったのですが、1.2 ポイントも差が開いており、辛うじて 20%台を維持したという形となっています。司法試験短答式試験の今年の合格率が約 80.8%（採点対象者数：合格者数＝3,897：3,149）であったことと比べると、予備試験短答式試験は明らかに「落とすための試験」という意味合いが強い試験だといえます。

また、受験者数・採点対象者数は、令和 2 年を除き、平成 27 年から微増傾向にあり、昨年の受験者数は、予備試験史上最も多い 13,004 人となっていました。今年を受験者数は 13,372 人と 2 年連続で 13,000 人台に到達し、最高受験者数を更新する形となりました。採点対象者数についても初めて 13,000 人台に到達し、予備試験史上最も多い 13,255 人となりました。

受験率については、今年は「80.1%」と 2 年連続で 80%台を維持しており、来年以降も同様の「受験率」が維持されるものと考えられ、2,500～2,800 人前後の合格者数となることが予想されます。

それでは、科目別に見ていきます。まず、憲法科目の得点に関する全体の平均点についてですが、令和元年から順に、「14.7 点」（令和元年）→「21.5 点」（令和 2 年）→「16.7 点」（令和 3 年）→「19.8 点」（令和 4 年）→「15.2 点」（令和 5 年）と推移しています。これらのデータから、今年の憲法科目の難易度は、令和元年からの直近 5 年間の中で、令和元年に次いで 2 番目に難しかったものと思われる。

行政法科目の得点に関する全体の平均点については、令和元年から順に、「12.1 点」（令和元年）→「14.4 点」（令和 2 年）→「10.7 点」（令和 3 年）→「12.8 点」（令和 4 年）→「10.0 点」（令和 5 年）と推移しています。これらのデータから、行政法科目の平均点は、他の科目と比べるとかなり低く（半分である 15.0 点を超えたことがない唯一の科目）、全受験生が苦手としている科目なのではないかと推察されます。今年の行政法科目の難易度は、令和元年からの直近 5 年間の中で、最も難しかったものと思われる。

民法科目の得点に関する全体の平均点については、平成 29 年改正民法が正面から出題されるようになった令和 2 年から順に、「12.7 点」（令和 2 年）→「17.3 点」（令和 3 年）→「15.2 点」（令和 4 年）→「17.3 点」（令和 5 年）と推移しています。これらのデータから、今年の民法科目の難易度は、令和 2 年からの直近 4 年間の中で令和 3 年と同程度に易しかったものと思われる。

商法科目の得点に関する全体の平均点については、令和元年から順に、「14.2 点」（令和元年）→「12.8 点」（令和 2 年）→「16.0 点」（令和 3 年）→「10.9 点」（令和 4 年）→「14.3 点」（令和 5 年）と推移しています。これらのデータから、今年の商法科目の難易度は、令和元年からの直近 5 年間の中で、2 番目に易しかったものと思われる。

民事訴訟法科目の得点に関する全体の平均点については、令和元年から順に、「17.8 点」

(令和元年) → 「15.1 点」(令和2年) → 「14.6 点」(令和3年) → 「15.1 点」(令和4年) → 「16.6 点」(令和5年)と推移しています。これらのデータから、今年の民事訴訟法科目の難易度は、令和元年からの直近5年間の中で、2番目に易しかったものと思われます。

刑法科目の得点に関する全体の平均点については、令和元年から順に、「14.5 点」(令和元年) → 「14.5 点」(令和2年) → 「17.3 点」(令和3年) → 「17.1 点」(令和4年) → 「18.2 点」(令和5年)と推移しています。これらのデータから、今年の刑法科目の難易度は、令和元年からの直近5年間の中で、最も易しかったものと思われます。

刑事訴訟法科目の得点に関する全体の平均点については、令和元年から順に、「15.6 点」(令和元年) → 「13.5 点」(令和2年) → 「14.6 点」(令和3年) → 「15.9 点」(令和4年) → 「14.5 点」(令和5年)と推移しています。これらのデータから、今年の刑事訴訟法科目の難易度は、令和元年からの直近5年間の中で、中間に位置する程度のもと思われます。

全体的に総括しますと、今年は輪をかけて行政法科目が難しく、憲法科目もやや難しかった一方、その他の科目は例年どおりか、やや易しかったものといえます。

### 3 予備試験の短答式試験に合格するためには

予備試験短答式試験の特徴として、合格者の平均点と採点対象者全体の平均点の乖離が大きいという点が挙げられます。

今年の司法試験短答式試験における合格点は99点以上であるのに対し、採点対象者全体の平均点は118.3点ですから、受験生全体の平均レベルの実力でも司法試験短答式試験を突破することは可能といえます。これに対し、今年の予備試験短答式試験における合格点は168点以上ですが、採点対象者全体の平均点は134.5点ですから、予備試験短答式試験を突破するためには、受験生全体の平均レベルの実力では不十分であり、合格率(令和5年:約20.3%)からすれば、受験生5人の中で一番良い成績を取れる程度の実力が求められているといえます。

予備試験短答式試験に合格するためには、一定の知識の量が必要なのは言うまでもありませんが、重要なのは「正確」な知識の量です。正しい理解を伴った知識でなければ、予備試験短答式試験を突破できるだけの正解を積み重ねることは難しいといえます。また、科目数が司法試験短答式試験よりも5科目多いこと、論文式試験ではおよそ問われることのないいわゆる「短答プロパー」の知識もより確実に合格するために一定程度求められることを踏まえると、勉強量を単純に増やすことだけでは不十分であり、自分に合った効率的な短答式試験対策を講じるべきだといえます。

具体的には、過去問を数回解いた後、苦手な分野や過去に出題されていない分野に焦点を絞って「正確」な知識を補充することが重要です。予備校の講座や書籍を活用する等して相互の知識を関連付けたり、体系的・網羅的に学習することができれば、予備試

験短答式試験を突破することができるでしょう。

以 上